

杵差 (えぶりさし) 岳 ~ 飯豊本山 2105m

2008・4・30 ~ 5・2

K.N 単独

夏山の飯豊は2回縦走している。1978年、麓で岩魚をつかみ取りして、雪渓の雪を詰めて山上に担ぎ上げて食べた。それが忘れられず3年後に又、計画した。うまい話は2度あるはずがない。岩魚はどこへ行ったのか。あれから30年。

穏やかに連なる飯豊には山スキーでも行ってみたいとあこがれていた。連れの伊田はスキーをやらない。まあ、雪上歩きでも満たされるだろう。今回は夜行バスで新潟に行く計画を立てた。最近、遠出は飛行機だったが、夜行バスは初めてで海外登山に行くようにわくわくした。ところが1は自転車トレーニング中に手を負傷した。仕方ない、久しぶりの単独行だ。一人ならせめて、まだ踏んでいない杵差岳を計画に取り入れてみよう。

連休の狭間に休暇をとった。バスはトイレつきなので安心してビールを買い込んで乗った。リクライニングにはなるがやはり寝づらくて疲れた。

5・29(快晴) 新潟からはJRで小国に行き、長者原までバスに乗った。車窓から飯豊の白い峰々が見える。終点が今夜の宿、梅花皮(カイラギ)荘だ。あたりは桜が満開だった。大勢の観光客が来て、花見を楽しんでいた。私も思わぬ花見となり山菜で昼間からビールを飲んだ。登山口を確かめに村はずれに行くと水芭蕉の群落に出会った。宿には露天風呂まであり、入山前の贅沢に気がひけた。夕食は岩魚の刺身と塩焼きで又ビールを飲んだ。朝食は早いのでおにぎりにしてもらった。

たった一人の山小屋

4・30(晴) 宿を5時に発つ。急登にあえぐが、カタクリやイワウチワがやさしく出迎えてくれる。西俣ノ峰から雪がつながり春の雪山らしくなったが、雪稜はどこもトレースがなかった。荷物の軽量化のため6本歯のアイゼンとストックにした。たおやかな雪稜だが、ピッケルを置いてきたので、多少不安もあった。頼母木山着10:00。頼母木小屋から杵差岳を往復するのに4、5時間かかるだろう。空身で行くには遠すぎる。荷物を担いでから杵差岳に



満開の桜と飯豊連峰



鉾立峰と杵差岳

向かう。鉾立峰の登りあたりから疲れが出てきてスピードが落ちた。杵差小屋には13時に着いたが、もう頼母木小屋に戻れなかった。朝から8時間の行程だった。とりあえず目の前の杵差岳に登り小屋の中に入った。まだ、今シーズン使った形跡がなかった。一人だけで寂しいが開放感一杯だった。雪割りのウイスキーが体中に染み渡った。夜中は異常なほど温かった。



北股岳と左奥は飯豊山

御西小屋を掘り出す



雪に埋もれた御西小屋と右、大日岳

5・1(晴) 5時出発。やはり気温は下がっておらず、雪も軟らかくてアイゼンも必要なかった。頼母木山まで引き返し、雪稜を南下する。今日も一人だけで全くトレースがない。広い尾根はどこを歩いてもよかった。目の前に北股岳が大きく、立ちはだかり、その奥に飯豊本山がある。石転び沢から二人のスキーヤーが上がってきた。山で初めて人に会った。北股岳に10時に着いた。そこから御西岳までが遠かった。スピードも落ち、もうこれ以上は歩けないと何度も立ち止まる。14:20御西岳小屋着。小屋は屋根だけ出して、まだ雪に埋もれていた。今夜はツエルトかと、不安になったが、2階の冬季入り口が掘り出せた。今夜も又、一人だろうと思っていたら、16時過ぎに飯豊山から単独行が入ってきた。地元の山岳会の人だった。山では珍しい若者だった。大きなザックに本格的なカメラを持ち、地元の山岳会らしい地味な山歩きを

していた。

終わってみれば、単独行も楽し

5・2(晴) 5:30発 飯豊山に向かう。一人山頂からこちらに向かってきた。福井の方だった。本山小屋に泊まったといい、大日岳を往復すると言う。遙か福井から車まで来たそうだ。春は雪山でも山頂だけは雪が消えている。三角点にカメラを乗せてセルフで写真を撮る。さあここからは下山モードであるが、まだまだ先が長い。飯豊山の下りでもう一人出会う。飯豊山往復とのことで、縦走はやはり自分ひとりだけだった。切合小屋に入れなくてトイレの通路でツエルトを張ったそうだ。しかし2階の窓に梯子がかかっている、登ってみるとちゃんと開いた。アップダウンを繰り返して、三国岳に着いた。夏のコースは地藏山を回って川入に降りている。4時間はかかるだろう。この先の剣ヶ峰の雪壁もやばい。松ノ木尾根を降りることにしよう。このコースは雪山コースとして使われるようだ。雪稜をどんどん降っていく。ぶな林が気持ちいい。そのうち、藪になってきたが尾根を忠実に下ればよかった。最後は谷の二俣に出て渡渉だった。靴は融雪がしみてぐちゃぐちゃだ。脱ぐこともないとそのままざぶざぶと入る。車道を30分あまり歩くと川入村に出た。



飯豊本山で、セルフ写真

民宿に着いたら、雪解け水を引いた樽にビールが冷えていた。久しぶりのビールが、喉にしみた。夕食時に山菜で又、一杯やっていたら猛烈に眠気が襲い、そのままふとんに転がり込んだ。

新潟の酒

5・3(晴) 宿のおやじさんに下の温泉まで送ってもらい、朝風呂に浸かってバスを待つ。バスで山都に出たが、有名な山都そばはどこも予約制だった。さっさと電車に乗り新潟に出る。早々に地元の飲み屋に飛び込みカウンターに座る。まだ5時だった。10時の夜行バスまでは粘れないが時間を稼ぐ。新潟の地酒も魚もうまかったが、地元の話もうまい肴だった。連休の大阪行きは4台も出るほど盛況だった。車中、もうアルコールは何も要らなかった。



雪解け道で拾った、古銭(寛永通宝)